

ユニバーサルデザインのまちづくり市民等意識調査について

第二次こおりやまユニバーサルデザイン推進指針の策定に当たり、郡山市を取りまく社会情勢や生活環境等の変化による市民や事業者等の意識の変化や多様なニーズを把握し、今後の施策や事業の検討、推進、評価等の基礎データとして活用するため、当該調査を実施しました。市民、町内会、事業所、行政（市職員）がお互いに尊重し共通認識に立った上で、協働によりユニバーサルデザインのまちづくりに取り組む指針とするため、各調査対象からご意見をいただきました。

〈調査の概要〉

	市民	町内会
調査対象	市内在住の18歳以上3,000人	市内地区町内会連合会等44団体
調査期間	平成28年7月22日～8月12日	平成28年6月14日～9月2日
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出	郡山市自治会連合会加盟連合会等
調査方法	郵送	郵送
回収率	28.1% (844人)	84.1% (37団体)

	NPO法人	事業者
調査対象	市内137法人	市内300事業所
調査期間	平成28年6月13日～6月30日	平成28年7月22日～8月12日
抽出方法	市内全NPO法人	法人市民税台帳より無作為抽出
調査方法	郵送	郵送
回収率	37.2% (51法人)	42.7% (128事業所)

	行政（市職員）
調査対象	職員2,696人
調査期間	平成28年8月1日～8月26日
抽出方法	正職員、嘱託職員等
調査方法	ウェブサイト
回収率	41.6% (1,121人)



編集・発行
郡山市市民部市民・NPO活動推進課
郡山市朝日一丁目23番7号
TEL.024-924-3471 FAX.024-931-5186
E-mail:shiminnpokatudou@city.koriyama.fukushima.jp
平成29年2月

平成28年度 ユニバーサルデザインのまちづくり 市民等意識調査報告書

《概要版》

■「ユニバーサルデザイン」とは

障がいの有無や年齢、国籍、性別などの違いにかかわらず、できるだけ多くの人使いやすい製品や建築・都市環境、サービス等の提供を目指そうという考え方が『ユニバーサルデザイン（UD）』です。

■「ユニバーサルデザインのまちづくり」とは

年齢、性別、文化、身体状況などの違いを超えて、すべての人が暮らしやすいようにまちづくり、ものづくりなどを行い、誰にでもやさしい社会をつくっていく考え方です。
郡山市では、市民、事業者、行政がお互いを尊重し、共通認識に立った上で、みんなで一緒に（協働で）ユニバーサルデザインのまちづくりに取り組んでいます。



7つの原則

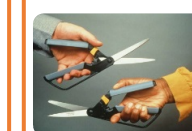
「ユニバーサルデザイン」で、まちづくりやものづくりをするときの目標です。

1 公平性 誰もが公平に 利用できること



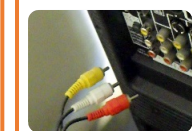
出入口が自動
ドアだとみんな
が使えます

2 自由度・柔軟性 使う上で自由度 が高いこと



右ききの人も
左ききの人も
使えるハサミ

3 単純性 使い方が簡単で すぐ分かること



色を見ただけ
で、どこに差
すの分かる
コード

4 分かりやすさ 必要な情報が すぐに理解 できること



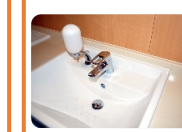
歩く形が光る信号
機はみんなが分
かりやすい音が
鳴って知らせる
信号は、もっ
とわかりやすい

5 安全性 うっかりミスや危険 に繋がらないデザ インであること



うっかり指を
刺さないよう
にカバーが付
いた画びょう

6 負担の少なさ 無理な姿勢をと ることなく、少な い力でも楽に使用 できること



レバー式の蛇
口なら、軽い
力で水が出せ
ます

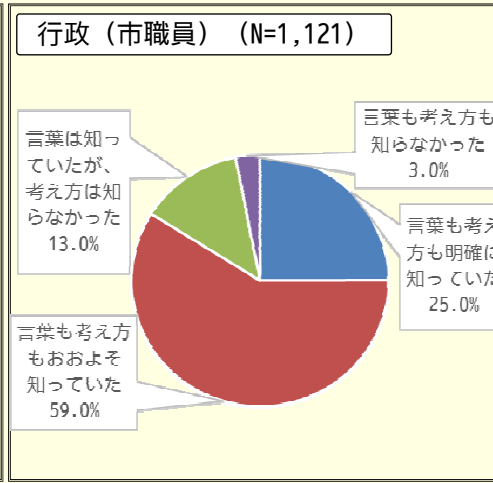
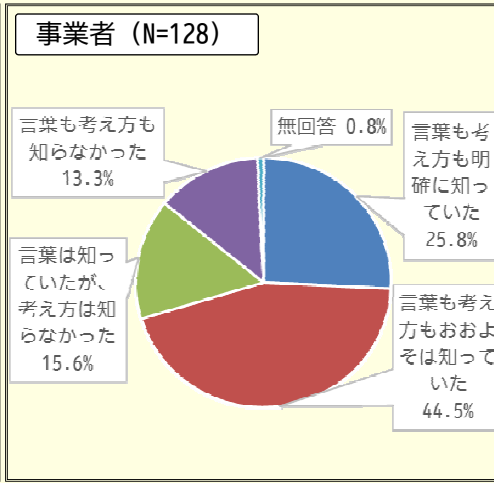
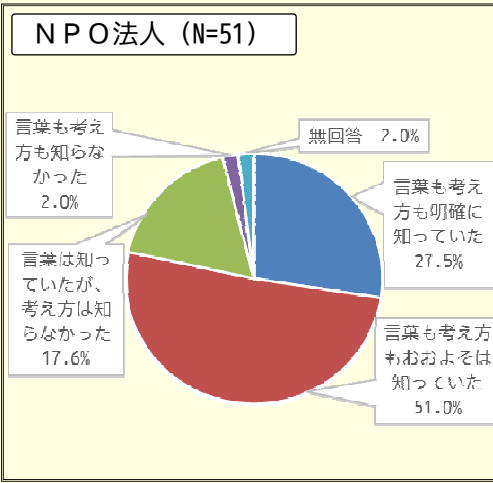
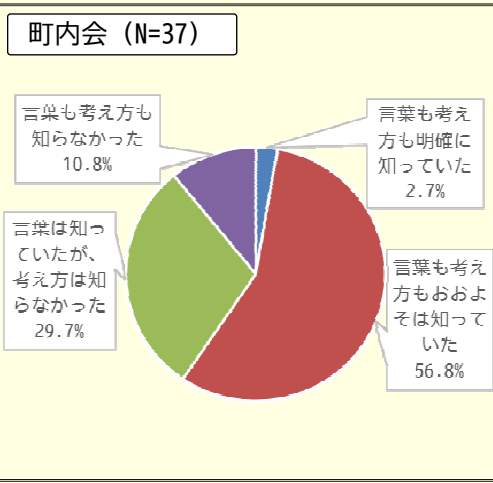
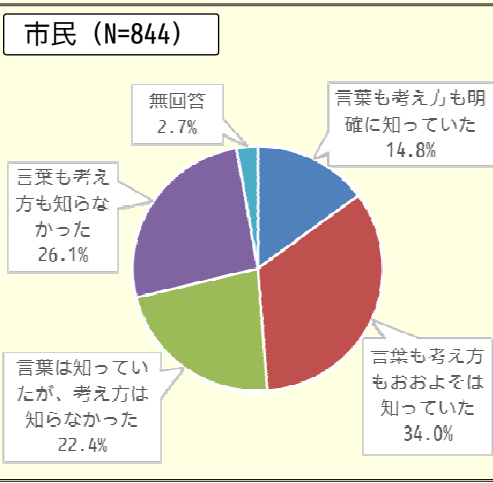
7 スペース等の確保 操作しやすいス ペース等を確保 すること



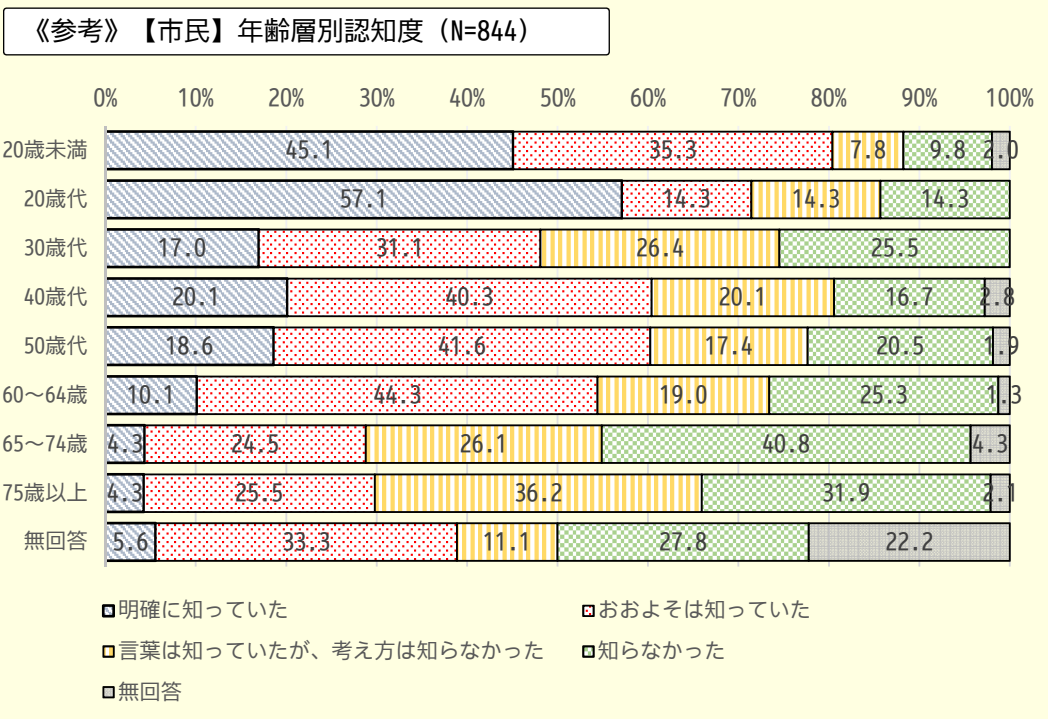
車イスも入
れるトイレ

「ユニバーサルデザイン」という言葉や考え方を知っていますか(認知度)

認知度は市民48.8%、町内会59.5%、NPO法人78.5%、事業者70.3%、行政(市職員)84.0%と対象によって差がありますが、概ね高い状況であるといえます。誰にもやさしいまちづくりのために特に市民への一層の啓発活動が必要といえます。

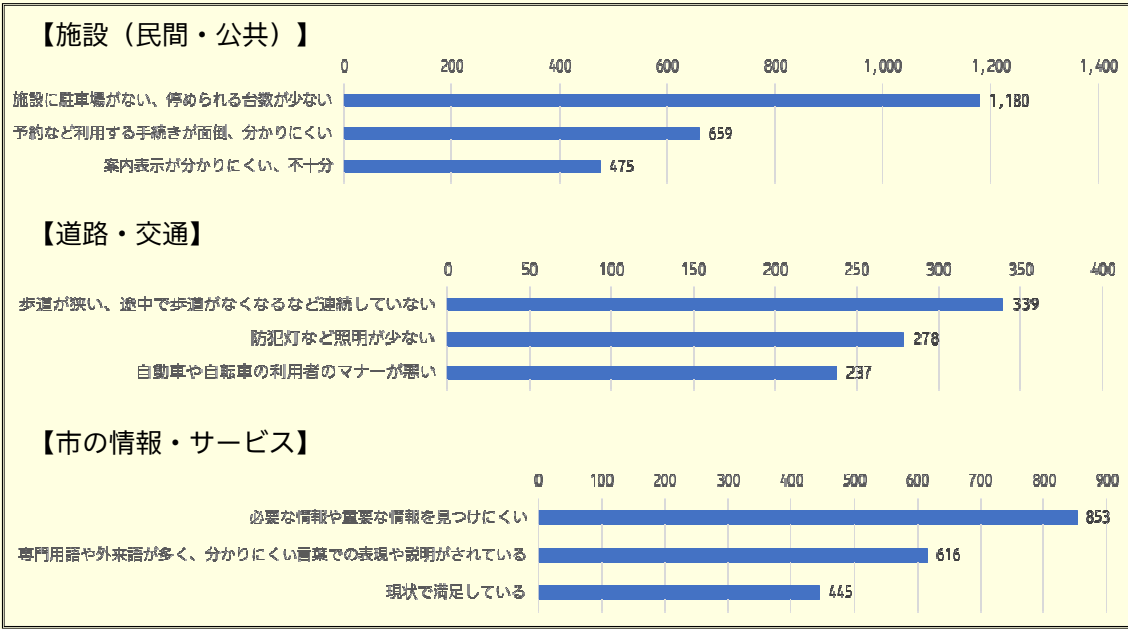


※認知度：「明確に知っている」と「おおよそ知っている」の合計



市民の認知度を年齢層別にみると、20歳未満が80.4%と最も高く、次いで20歳代が71.4%と若い世代において高い結果となりました。これは、小中学校等での授業や市の出前講座等によるものと推測されます。反対に65歳以上では、30%未満と低く、両極端な結果となりましたが、幅広い年齢層に認知いただけるよう啓発活動の継続が必要といえます。

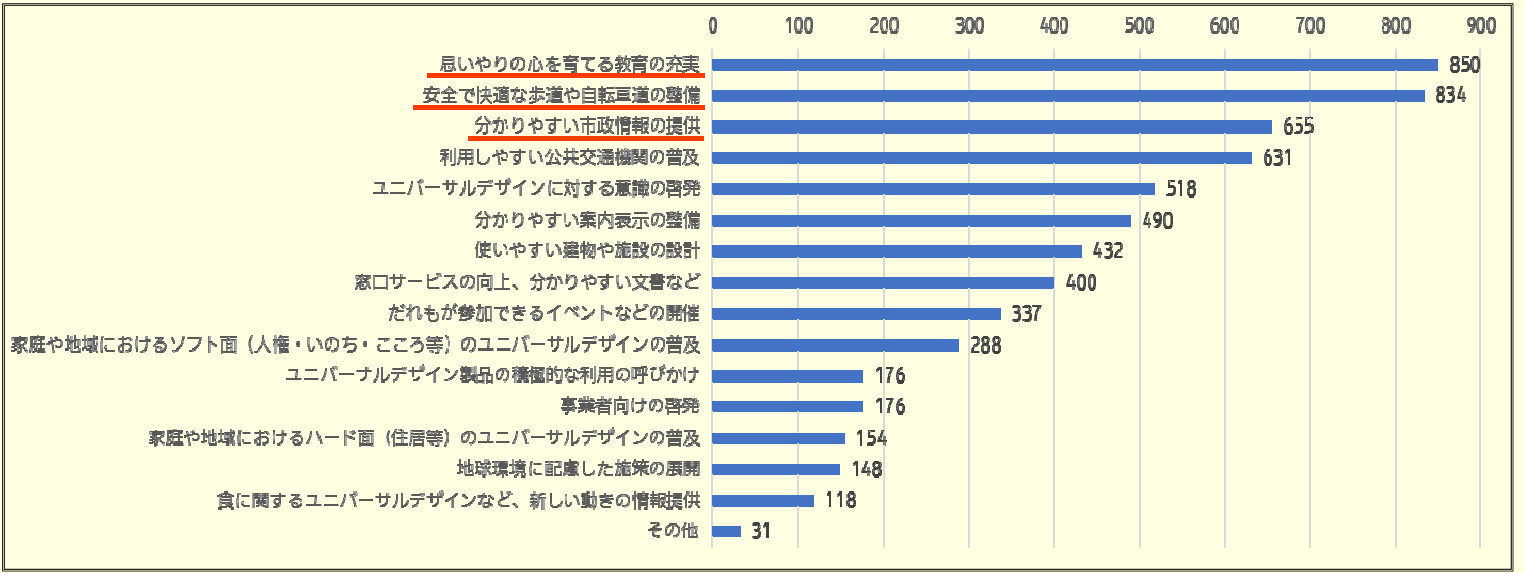
施設や道路、情報・サービスで不便に感じること(上位3項目)



「普段利用する施設や道路・交通、情報・サービスで不便に感じていること」について調査したところ、上位3項目については、左の結果となりました。今後もハード、ソフト両面において、工夫が必要といえます。



「ユニバーサルデザインのまちづくり」を推進するために必要な取組みについて



「ユニバーサルデザインのまちづくり」を推進するために取り組むべきこととして、最も多かったのは「思いやりの心を育てる教育の充実」、2番目が「安全で快適な歩道や自転車道の整備」、3番目が「分かりやすい市政情報の提供」という結果でした。このことから、ユニバーサルデザインに配慮した施設や道路等を整備するだけではなく、それを使う人たちの「思いやりの心」が大切であるといえます。



今回の調査において、ユニバーサルデザインの認知度は、全体的にみて概ね高い状況であるといえますが、今後も市民を中心に啓発活動の継続が必要と考えます。また、ユニバーサルデザインに配慮した施設整備や情報・サービスの提供に取り組むとともに、思いやりの心を育てる教育に取り組むことで、考え方への理解や重要性についても、より一層高めていくことが必要であるといえます。

